

日本学術会議 公開シンポジウム「教育データの利活用の動向と社会への展開」
パネル討論(テーマ・教育データの利活用の将来について考える)
2021. 10. 17 (オンライン)

学習者個人の立場で見た 教育データ利活用の可能性と不安

中山 迅

(宮崎大学大学院教育学研究科)

学校が公的に保有するデータ (1)

1. 児童指導要録, 生徒指導要録に記載する事項
 - 小学校の場合 (参考書式から)
 - 各教科の学習の記録(学年ごとに3観点 [知識・技能, 思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度]の評点), 特別の教科道徳(学習状況及び道徳性に係る成長の様子)(自由記述), 外国語活動の記録, 総合的な学習の時間の記録, 特別活動の記録
 - 行動の記録(学年ごとに各項目へのの評点)
基本的な生活習慣, 思いやり・協力, 健康・体力の向上, 生命尊重・自然愛護, 自主・自律, 勤労・奉仕, 責任感, 公正・公平, 創意工夫, 公共心・公德心
 - 総合所見及び指導上参考となる諸事項)(自由記述)
 - 出欠の記録
授業日数, 出席停止・忌引等の日数数, 出席しなければならない日数数, 欠席日数数, 出席日数数, 備考
2. 全国学力・学習状況調査 (小6, 中3)の結果
 - 算数・数学(毎年), 国語(毎年), 理科(3年毎), 外国語(3年毎)

学校が公的に保有するデータ (2)

3. 学校保健統計調査規則に定められた事項

1 身長、体重、胸囲及び座高, 2 栄養状態, 3 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態, 4 視力、色覚及び聴力, 5 眼の疾病及び異常の有無, 6 耳鼻咽いん頭疾患及び皮膚疾患の有無, 7 歯及び口腔くうの疾病及び異常の有無, 8 結核の有無, 9 心臓の疾病及び異常の有無, 10 尿, 11 寄生虫卵の有無, 12 その他の疾病及び異常の有無

4. 体力・運動能力調査

① 小学生

✓1握力 2上体起こし 3長座体前屈 4反復横とび 520mシャトルラン(往)

② 中学生～大学生(12～19歳)

✓1握力 2上体起こし 3長座体前屈 4反復横とび 5持久走 620mシャトルラン(往復持久走) 750m走 8立ち幅とび 9ハンドボール投げ
※持久走と20mシャトルラン(往復持久走)は選択実施

日々の学習データは？

- 1人1台の端末による学習データの書式は，使用しているシステム(アプリ)によって異なる
- データ保存場所は，契約している企業のサーバなど
 - 各学校内での教育利用に限定される
 - 児童・生徒が各自のデータを持ち出しできるかどうかは，おそらく不統一

とりまとめ役からの質問に対して

1. 教育データ利活用により，将来もっとも良くなると期待できるのは？
 - 自らの知識・技能・能力・態度などについてのデータを，自身の必要なときに必要な形式で提示して，自分用にカスタマイズされた教育・支援・訓練などを受ける。
 - 子どもの健康上の問題，貧困，虐待などが的確に把握され，対応される。
2. 教育データ利活用を進める際の困難あるいは教育データ利活用にともなうリスクのうち，もっとも懸念されるのは？
 - 教育データが，それを提供した個人の利益に反する用途に利用される。たとえば，入学試験，就職，結婚，社会的組織への加入など。
 - 自らの教育データが流出し，本人にはコントロールできなくなる。(SNSへの流出など)
 - 誤ったデータが流出し，個人の不利益になる。
3. さまざまな困難を克服して将来の学習・教育を良くするとともに，リスクも抑制するために，次のアクションとして，どのようなものが重要か？また，将来どのようなアクションが必要になる？
 - 厚生労働省や医療関係者と連携し，教育データと医療・健康に関するデータの取り扱い方法を一元化あるいは連携する。
 - 従来は紙媒体が基本のデータをデジタルデータとする法整備をする。
 - 年に1度ではなく，年間を通して随時または短いスパンで入力する制度とする(学校現場の負担が課題)